

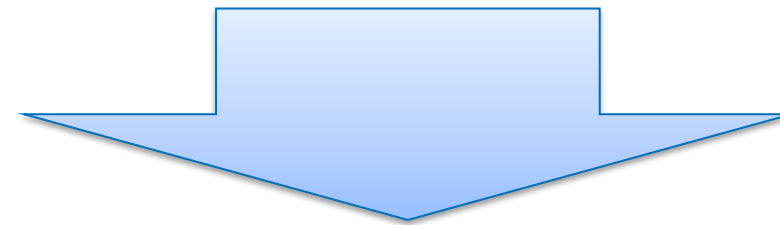
縣陵東京同窓会課題議論

「何のために東京同窓会は存在するのか」
(こうありたい、こうしたい)

第三回代表幹事会議事録

(おさらい)背景

- 会則運営細則については、今まで長いこと運営してきたことで、不便なこと、わかりづらい点がいくつか出てきている。それを分かりやすいように改正したい
- まず一番に考えたいのは「同窓会とは何ぞや」
「どういう目的」で「どういう人たちの為に」「どういうことをするのか」を皆さんでお話したい (2022/9/24 R4 第2回合同幹事会 久保田会長の発言より)
- 若手も参加したくなる東京同窓会の「ありさま」をまず再定義する必要がある。そのうえで、会則変更などを議論すべき (202211/27 R4第1回代表幹事会 二木の発言より)



**代表幹事会メンバーにて
「何のために東京同窓会は存在するのか」
(こうありたい、こうしたい)をまず議論
→今後の東京同窓会のさらなる発展に向けた議論のきっかけとする**

議論の進め方(イメージ)

各々の意見・課題の表明



意見・課題の整理



ギャップ・課題に対する議論 あるべき姿集約



次のステップへ(会則見直し・体制見直し ほか)

← 本日はここ

議論のルール お話しいただきたいこと

- 大きな時間割は次の通り
 - 5分 導入
 - 50分 議論
 - 5分 次回検討事項のまとめ ほか
- 限られた時間ですべての代表幹事の方より意見を伺うため、1人当たりの時間を制限します
 - 1人当たりの意見表明 3分 (11名で33分)
 - 残り17分程度を意見・課題の整理をしながらのフリーディスカッション
 - 2分30秒で「そろそろまとめてください」と私がコメントするので、30秒でまとめてください
 - 3分を経過したら「ありがとうございました」と私がコメントするので発言は終わりにしてください。どんなに途中で終わります。(NHK日曜討論方式)
- お話しいただきたいこと
 - 「何のために東京同窓会は存在するのか(存在目的)」(こうありたい、こうしたい)
 - その目的(ありたい姿)との差分、課題は何か (あるべき姿と現状が一致していればなしでOKです)

皆さんからの意見

理念

具体的なアクション

課題懸念

お名前	同窓会存在目的(こうありたい こうしたい)	あるべき姿に対する課題
久保田さん	沿い構成が望んでいるのは、先輩に職業的なことや社会に出てからの注意事項などを具体的に聞きたい。同窓会に興味を持てる情報の発信、就職相談の受け口、クラブ活動的なものを多く設置して参加意欲を促す	今までのやり方では振り向いてもらえない。後輩の要望に対して受け止められる器がない。
三澤さん	縣陵に在籍した関東近県在住の同窓生が母校、同期先輩後輩、あなたの思いを叶える手助をするのが東京同窓会。同窓生が年に一度一堂に会し旧交を温める楽しい場を皆で楽しめ。継続は力なり。30年経ったら同期会をやるというのが夢の1つ。東京での研修会への支援	
百瀬さん	親睦の会。就職・転職相談ができる。営業先・取引先等仕事の拡大。趣味OFF会の時間の機会の場。困った時に同期・同窓の人に相談できる場の提供	いまある同好会以外の趣味の場の受け皿が必要
小松さん	同じ地元を巣立った人の共通点。兄弟のような感覚が何物にも代えがたい。絆を大事にする→なんでも相談 お互いに助け合い。時代とともにやり方は変わる。新しいやり方を取り入れる必要がある。	
太田さん	年1回の懇親の場があることの大切さ。東京同窓会について実行委員をやるまで知らなかった。その後、同期の集まりが増えた。年一回の懇親の場を守りたい。	
衣袋さん	3年間同じ学び舎で過ごした人との繋がり。年代を超えて交流できるのがこの同窓会。東虹会では、今まで知らなかった人たち同士での交流・語り合いの場ができた。	30年の幹事にならないと集まる機会がない。どう集めるのか
戸田さん	次の世代に同窓会を変えていってほしい	120周年、130周年に向けてどう若手を集めるのか。広報の後継ぎがない 誰も手を挙げてくれない。輪番制のように強制的に指名する方法も要検討。
森本さん	楽しいことを倍にして つまらないことを半分にするのが同窓会の意義。若い人と触れ合えるのが楽しい。	毎年フローになっている(ルーチン?)がストックしていきたい。
濱田さん	年1回懇親会も大事 それ以上に発展したいのは、現役世代はビジネスチャンスの場にした、若者が頼ってくれる存在にしたい。学生部創設も就職支援をしたらどうか	若手をどう引き込むのか 考えているけど具体的な案が出ない 大学2年生の木村さんとの連携からいろいろアイデアをもらい取り上げていきたい
小岩井さん	世代によって求めるものが違う。年を重ねると旧友と会うのが大切に、1つの方向にまとめるのは大変だが、学生部・青年部を作ったり、いろいろが分科会があってもいいのでは。就職どうするの？あの先輩はどこにいるよ、などの情報提供の場とする。	卒業～その後のキャリアを積む中で、同窓会と絡む仕組みづくりをしたらどうか。現役の学生の頃からアイデアを組み込んで、幅広い世代が集まって楽しめる場にした。
巢山さん	継続は力。第4金曜日にビジネス交流会をしていた。剣道部等クラブのOB会はしていた。受験の時に自宅に泊めたことある。次につなげる為に5年委員会を作った。先輩後輩のつながり 具体化大事 在校生への支援 次はどうつなげるのか	組織的に思いをどう実現するのか。東京同窓会にはどうするのが有るんだよとお知らせする。
松澤さん	30年の幹事まで知らなかった。幹事の際に在籍時に話せなかった人たちとの語り合いは良かった。繋がりができた。ビジネス的な交流。世代を超えた交流ができることが良い。サークル的なもので世代を超えて交流。	実行委員会の幹事のメンバーが集まらないと聞いて寂しい
二木	「母校への恩返し」「東京近郊在住メンバーの同窓生同士の交流の場」ビジネス交流会 (過去実施したが継続しなかった)	松本同窓会との差異化。セミナー会ネタの不足(メリットとなる情報・ネタの不足)
嶋田さん	サークル活動をしたい。学校の枠を超えた活動。ハイキングサークルを作りたい (作って良いか)	年に2~3回 サークル立ち上げもできる!
伊藤さん	大人の社交クラブ。会社・親戚でもない 別のつながりの場(そこそこの年になってから)高卒者を対象にして歓迎会とかやったら良い。他校同窓会との交流も楽しい。	
佐藤さん		若い人の情報が何も入ってこないことが最大の不安。それが出来ないと、下に繋げることができない。それを解決することが必要。継続性への不安が大きい。
小林さん		いかに同窓会と接触するのか。個人が繋がるには良いが、組織として繋げるにはどうしたらよいか課題。先輩から声を掛けられて参加するようになった。繋がりをどうするかが課題。

整理結果 サマリ

- 理念 → こちらは大きな差異はないように思える
 - 関東近辺に在住する縣陵同窓生の親睦の場
 - 年代を超えての親睦の場
 - 母校への恩返し
- 課題・懸念 → こちらは議論ポイント多数
 - 若手が集まらない 継続性に課題
 - 若手が集まるようなきっかけ、ネタがない
 - 後輩(若手)の声が聞こえない
 - 組織的に思いをどう伝えるか
 - 松本同窓会との差異化
 - 時代とともにやり方は変わるが どう変わればよいのかわからない
 - 今までのやり方では振り向いてもらえない
 - 後輩の要望に対して受け止められる器がない
- 具体的なアクション
 - 課題を解決してから・・・

おわり